

資料1

為歲言一氣祥

小袖又贈給之

物也一玉名毒細

通舟雅未既今逢

逢

正月百家總

紀傳

大納言殿

為歲暮之佳祥
小袖三重列來
欵入作委書
古屋相摺与可
述小坡之

三月廿一日

尾張
中將殿

為歲暮之佳祥

小袖二衣相贈

飲然下妻也古屋

相携与一述作

評

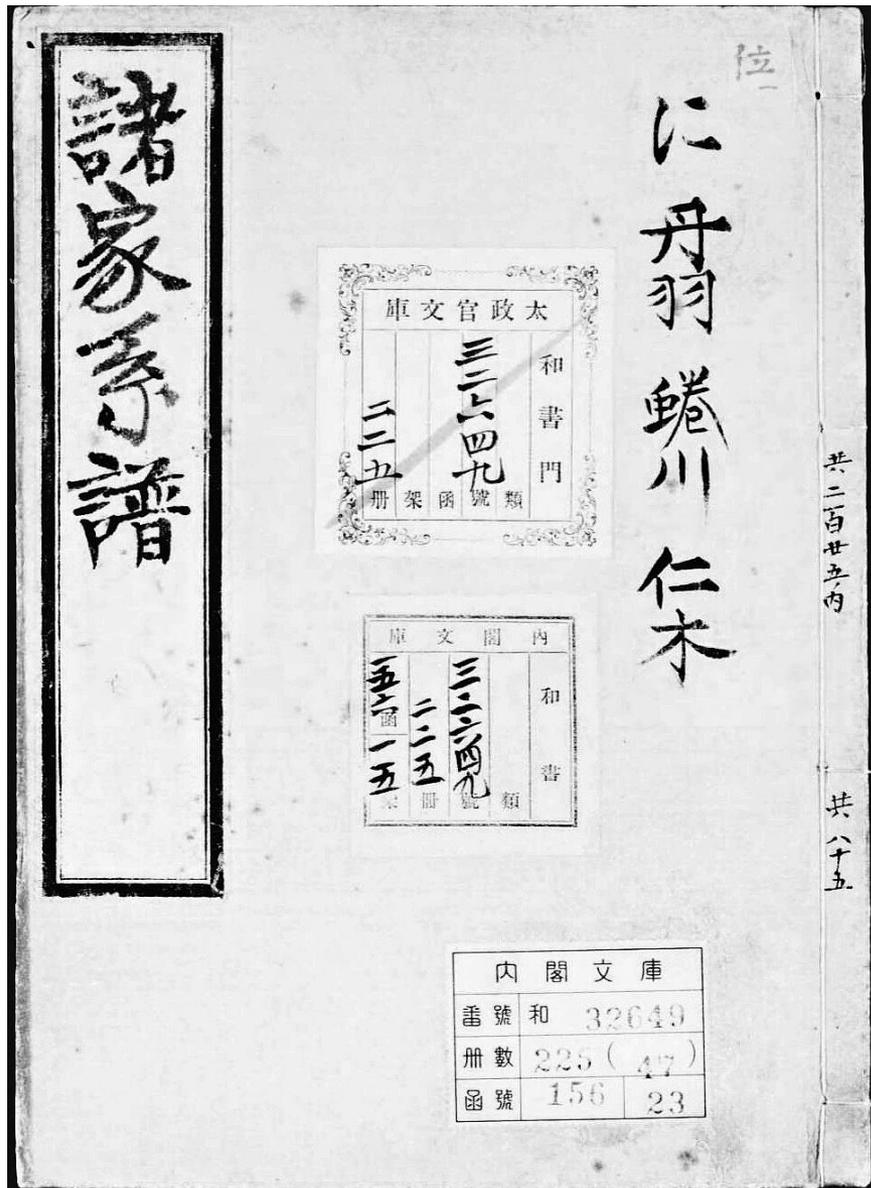
三月廿日繼書

水戸
中納言殿

諸家系譜 第47冊

(国立公文書館所蔵)

- 江戸幕府が大名・旗本の系譜集『寛政重修諸家譜』(1530巻、文化9年<1812>完成)を編纂するにあたって、大名・旗本の各家から提出させた系譜書を書き写したもので、現在は225冊からなる。
- 各家の系譜書では、徳川家康や幕府との結びつきに関わる由緒が強く主張されており、『寛政重修諸家譜』の編纂にあたった若年寄の堀田正敦らは、これらを他の史料と突き合わせて考証・訂正し、「略譜」と呼ばれる中間的な系譜集を作成、さらにこれに修正を加えて『寛政重修諸家譜』の献上本を完成させた。



太政官文庫
和書門
三三六四九
類號函架冊
三二九

内閣文庫
和書類
三三六四九
冊架函架
二二五
五三

内閣文庫	
番號	和 32649
冊數	225 (47)
函號	156 23

共二百廿五内

共八十五

系譜抄

源氏
四書後
五回
嵯川與三節

源氏

書法武并二字札書傳事一決

嵯川在道親也依久保吉直正三ノ州多宗我

流書札法武二字札書法在道親傳事

又伊予嵯川在道親也依久保吉直正三ノ州多宗我

右書札法武親也依久保吉直正三ノ州多宗我

室町將軍家分傳一決

神君師範之師愛我又在高師奉書

上宗法例二字札書法在道親傳事

後嫡子宗我及直也古稱在道親傳事

一大事本武傳傳事一決

牧年所外仕功上二字書法

我朝皇朝... 子相... 外今有免洋... 人政... 等... 及之刑... 二...

大前... 古...

上... 正元... 正元... 正元... 正元...

天... 正元... 正元... 正元... 正元...

正元... 正元... 正元... 正元... 正元...

文章... 正元... 正元...

竹園の作、自古外祖傳、以爲書中、
二字孔也、傳以絶、二、及、
家

上、
中、
下、
は、
は、

西、
初、
親、
書、
也、

親英、
札、
親英、
十、
書、

文章、

一、
殺、
一、

神、

一、
選、

御月御前日記の巻の二 親雅書札二文字札
極意に極意に御記也

元文二年八月末 慶山 極意に二文字札御
記也 信守文書に御用御記

富澤宮子 享和二年正月 御記 極意に二文字札
二文字札書信御記に書札御書の親雅の

婦長 徳川吉五年 親雅の 御記に二文字札御
記也

王后 二文字札 享和二年 極意に二文字札

親雅の二文字札書信御記に 信守高村

御月御前

一 公卿の親雅書札御書 彦右沙字親雅御相
記也

御記

御記 享和二年御用命 彦右沙字親雅御相
記也

出向御殿 彦右沙字親雅御相 彦右沙字親雅御相
彦右沙字親雅御相 彦右沙字親雅御相

彦右沙字親雅御相

彦右沙字親雅御相 彦右沙字親雅御相 彦右沙字親雅御相
彦右沙字親雅御相 彦右沙字親雅御相

彦右沙字親雅御相 彦右沙字親雅御相 彦右沙字親雅御相

彦右沙字親雅御相 彦右沙字親雅御相 彦右沙字親雅御相

彦右沙字親雅御相 彦右沙字親雅御相 彦右沙字親雅御相

一親應代公代始和抄世傳書の可成は親履

崇子臣丁卯年

桃園院 印印位相併大賞會一

懐信公 御身公乃御用守備

上院公公乃御用守備

右通沙在島上

寛政十一年

巻川與三郎

印